

夢みらい
クラブ
代表質問



真鍋 顕伸
議員

小・中学校の適正化に伴う

地域づくりに対する考えは？

問

市長選挙で掲げられた公約では、小・中学校の適正化は、子どもの教育と環境を最優先に進め、地域づくりとは別の視点で考えるべきと示している。学校は地域コミュニティの核であり、適正化後の地域づくりの検討とロードマップが必要ではないか。

答

小・中学校の適正化は、子どもたち一人一人の学びを守るため、教育環境の整備を最優先に進める一方で、通学や放課後の居場所、地域とのつながりなど、学校適正化と地域づくりは関わりが深いことから、これらの課題にも丁寧に対応していきたい。

また、地域づくりについては、西条市地域コミュニティ基本指針に基づき、地域自治組織を中心に、地域の特性や歴史を尊重しながら住民主体で進めていくべきと考えている。

学校適正化後の地域づくりや学校跡地の有効活用についても、地域の皆様との対話を重ね、意見を取り入れながら取り組み、安心して暮らし、地域に貢献したい人々が主体的に関われる魅力ある地域づくりを進めたい。

水の恵みを次世代へ

西条平野の塩水化対策は？

問

本市が誇る水の恵みを次世代へ確実に引き継ぐと所信を表明されたが、樋之口周辺で塩水化エリアが若干広がっていると推察する。

地下水保全を目的とした西条市地下水保全管理計画に掲げた優先的に取り組む施策をこれまで以上に踏み込んで、着実に実施するべきではないか。

答

地下水保全の最も基本となる科学的な調査と監視の継続強化として、地下水位、水質、河川流量、塩化物イオン濃度などのデータを蓄積し、西条平野と周桑平野それぞれの特性を踏まえた科学的な地下水管理を進めていく。

塩水化対策については、沿岸部の塩水化リスクへの対応強化のため、観測井戸を新設し、地下水位に加え、塩水化の初期兆候を把握するため、電気伝導率のリアルタイム監視システムの構築を進めていく。

また、西条平野は加茂川の流量が地下水に与える影響が大きく、特に灌漑期には地下水利用が増加するため、西条平野の地下水位低下と沿岸部の塩水化リスクへの対応を重点的に進めていく。



鷹丸に設置された
地下水位の観測井戸

南海トラフ地震に備え

群馬県内の自治体との関係構築を！

問

南海トラフ地震における応急対策職員派遣制度アクションプランに基づく本市への応援自治体が群馬県伊勢崎市及び渋川市に決定したことを、どのように認識しているのか。また、両市と今後どのように関係構築していくのか。

答

南海トラフ地震発生時には、業務量が急激に増加することが想定され、本市職員も被災者となり、本市のみの体制では膨大な災害対応業務を行うことは困難となる。その中で、群馬県からマンパワーの支援を受けられることは、早期の行政機能の回復、更には復旧・復興につなげる上でも、極めて有意義であると認識している。

群馬県及び愛媛県との連携の下、令和8年度内に両県市町村合同ミーティングを開催するほか、協議事項案の作成、応援・受援マニュアル案の作成などが行われる予定である。

今後、伊勢崎市及び渋川市とは、図上訓練の実施などを通じて関係の深化を図り、災害発生時の迅速な応援・受援につなげたい。



佐伯 利彦
議員
西条自民クラブ